

れんざい 監査の四季

第29回

鯖江市代表監査委員

川中清司

これからの地方行政(3)

良いところを見つけ、まちおこし

長野県の飯山市は人口2万6千人、金ぴかの稲山仏壇が有名で、冬はスキー客が大勢訪れます。

千曲川と支流の沃えた平野は、米と野菜と花が豊富。冬でも掘り出した甘い人参やゴボウを食べてもらおうと、グリーンツーリズムが始まりました。

京都の美山町は人口5千人の町。行政に頼らず自分の手でやろうと、住民の地域振興会と役場職員がくい打ち・土盛りなど道路の保守も担います。モミジの苗を植えて、将来は紅葉の名所を目指して意気込んでいます。



鯖江の素敵な産業を知ろう

親子で参加した地元企業の
見学と体験ツアー

住民も負担して地域をつくらう。こうした動きが広がっています。

人形、屏風で活気を呼ぶ

村上市は鯖江市と姉妹都市。七夕には壮麗な「おしやぎり」山車が12台も町を練り歩き、数万の人出でにぎわいます。最近はお人形や屏風を町屋に飾り、お寺や料理屋では三味線や琴のミニ演奏会も開き、お年寄りが昔話とお茶を振る舞います。人情の豊かな町だと全国の人気を呼んでいます。

鯖江の良さを見直そう

鯖江市はファッショントウン計画をはじめから5年目、約70%の事業に着手して成功事例も多くありません。

河和田の漆器工房、花のまちづくり、萬慶寺の山門など鯖江百景の地域の資源掘り起こし。越前漆器に盛りつけた菜膳料理。地場産業を知って体験する、親子の市内工場巡回ツアーも好評です。商工会議所のアクションプランも実り、地図を片手に町を歩く観光客も増えてきました。まちは市民の笑顔が築くもの。さあ、みんなで明るい鯖江づくりを。